



「海鳥を取りまく自然環境の保全」と
「羽幌の地域産業の振興」の両立に向けて

竹中 康進

(環境省 羽幌自然保護官事務所)



(世界的に貴重な海鳥の繁殖地を有する天売島)



ウミガラス (日本で唯一)



ウミスズメ (日本で唯一)



ケイマフリ (日本で最大)



ウトウ (世界で最大)

(基本的な考え方)

○世界的に貴重な海鳥の繁殖地が天売島に存在するのは、島だけではなく
羽幌地域の自然環境が豊かであるから。

⇒海鳥、海、森、川、我々の暮らしはそれぞれ密接につながっている



海鳥の保全には、海鳥をとりまく自然環境を保全する必要がある

⇒海、森、川、暮らしに関わる人たちの協力が不可欠

○羽幌の地域産業（漁業、農業、林業、観光業、商業など）は自然環境と深い関わりを持っている。それぞれの産業において、「主体的に」
自然環境の保全の取組が促進していくためにはどうすれば良いか？



自然環境の保全を行うことが、各産業の振興につながる必要がある

「海鳥をとりまく自然環境の保全」と「羽幌の地域産業の振興」
の両立に向けた検討を実施

(今までの取り組み)

○羽幌の地域産業や環境・地域づくり団体、行政など14団体へのヒアリングや関係者との意見交換会などを実施し、意見を伺った。



(ヒアリング結果のまとめ①)

- 羽幌の各産業は、事業の継続性などに相応の危機感や切迫感を持っている。
- 自然環境と直接関わる産業では、環境の変化を身を持って感じており、産業を継続するためにも自然環境保全への意識を持っている。
- 各産業においては、一部で自然環境に配慮した取組を行っているが、それが産業振興のメリットになるまでには至っていない。
- 羽幌の自然環境などにより、気が付かないうちに（結果的に）自然環境に配慮した取組になっているものもある。
 - 他地域と比べて農薬散布が少なく済む
 - 資源を守るための持続可能な漁業

(ヒアリング結果のまとめ②)

- 産業の担い手にとっては当たり前前のが、他から見たら非常に関心を引くものだったりしている。
- 漁業や林業、一部の農業では、海と川と森のつながりを体験として認識している。ただそれは、町民にはよく理解されていない。
- 各地域産業とも停滞感を脱するために他の産業などとの連携を期待している。
- 羽幌の住民が、羽幌の自然環境の事、価値についてあまり知らない。

(ヒアリング結果のまとめ③)

- 「地域産業と自然環境」、「自然環境と地域住民」、「地域産業と他の地域産業」、「地域産業と新たな産業の担い手」など、それぞれをコーディネートする人材・団体が存在しない
- 自然環境の保全が産業活動の足かせや産業振興の妨げになるとは考えていない。
- 天売島や焼尻島の町づくり団体などでは、人口減少の現状に強い危機感を抱いており、若者が先頭にたって現状を変えるための動きを起こしている。

(今までの取り組み)

〇羽幌の地域産業のことや自然とのつながりについて、多くの人に知ってもらうため「**どっちも大切！羽幌の自然と地域産業**」を開催し、地域産業の担い手から話を聞いたり、現場に訪れた（H27年度から7回実施）

はぼろ学講座

『どっちも大切！ 羽幌の自然と地域産業』

羽幌の豊かな自然とつながりが深い地域産業（農業・漁業・林業）の担い手のみなさんを講師に、羽幌の自然環境と産業の関わりや、取り組みについて紹介してもらいます。

■内容

- 第1回 **2月16日(火)**「農業」 講師 こだわり米農家 川端博明さん
第2回 **3月1日(火)**「漁業」 講師 北るもい漁業協同組合 蝦名修さん
第3回 **3月15日(火)**「林業」 講師 留萌中部森林組合 工藤一彦さん
※3回シリーズですが、1回だけの参加も大丈夫です。お気軽にご参加ください！

■時間 各回とも 午後7時～午後8時30分

■場所 北海道海鳥センター映像ルーム

■申込 不要

■参加費 無料

■主催 北海道海鳥センター、環境省羽幌自然保護官事務所、
はぼろ学講座実行委員会

■お問い合わせ

北海道海鳥センター 苫前郡羽幌町北6条1丁目 電話 0164-69-2080



(今までの取り組み)

○環境省が進める「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」との連動を目指し、同プロジェクトのキックオフミーティング開催やシンポジウムへの参加などを行った。



(シーバードフレンドリー認証制度について)

○「海鳥をとりまく自然環境の保全」と「羽幌の地域産業の振興」の両立のための具体的な取組として、【シーバードフレンドリー認証制度】の実現に向けた検討を実施中。



海鳥をとりまく自然環境に配慮した地域産業の取組や商品を「海鳥に優しいシーバードフレンドリーの取組/商品」として認証し啓発することで、付加価値をつけ経済的なメリットの拡大を目指す。

- 例
- 海鳥が混獲しないような漁法で水揚げした海産物
 - 農薬を少なくして生産した農作物
 - 地元の産物を使い売り上げの一部が海鳥保護に活用される商品
 - 自然環境に配慮したエコツアー など

- 海鳥に優しい事をするのが得をする仕組み作り
- 羽幌地域の特異性（海鳥）を活用した他地域との差別化

○羽幌町役場は、町の環境基本計画の重点プロジェクトの一つにSBF認証制度の実現を位置づけ、それを実行するために地域おこし協力隊を採用。

(はぼろ域活海鳥の会ワーキングチーム)

OSBF認証制度の実現に向けて、羽幌の地域産業の担い手や環境保全/地域づくり団体・行政など約20名で「はぼろ域活海鳥の会ワーキングチーム」を立ち上げ、認証制度の具体的な内容について検討を行っている。

(H28年度から7回実施)

○今までにワーキングチームでは以下の議論を実施

(H28年度)

- 他地域の環境保全と産業振興の両立の事例紹介（環境CSRやCRM）
- 羽幌地域の環境に配慮した取り組み事例

(H29年度)

- 羽幌地域の課題や将来ビジョン、課題解決のアイデア
→SDGs（持続可能な開発目標）や森里川海の考え方との連動
- SBF認証制度の方向性（柱）の検討
- SBF認証制度の実施体制、スキームなど



(今後の取組について)

(今後の実施体制)

- 年明けをメドにワーキングチームを発展させて【協議会】を立ちあげる。
→明確な実施主体の確立、活動資金の受け皿
- 協議会の事務局は北海道海鳥センターに置き、羽幌町役場と環境省が共同で担う。
→将来的には事務局業務を行うNPOの設立などを視野に入れる
(SBFだけでなく、海鳥センター管理や海鳥調査、普及啓発など海鳥のトータルコーディネートを行うような団体を目指したい)

(予算)

- 来年度以降は協議会が資金の受け皿となる形を想定し、交付金や外部助成などの獲得を目指す。
→生物多様性保全推進事業（交付金）：羽幌町役場からの予算拠出
→SDGs促進に関する事業 など

(来年度の取り組み)

○試験的に以下の事業のSBF認証を行ない、認証までの手続きや啓発活動を通じて、手法の検討や課題の洗い出しを行う。

- ・特別栽培米おろろんの米作りと、販売にかかるホクレン/JAの環境CSR
- ・地元の漁協による海鳥の混獲対策の実施（野鳥の会や国際NGOに協力）

→啓発には環境見本市への出展や、葛西臨海水族園や日本野鳥の会などとの連携を進める



○特別栽培米の田んぼでの生物多様性調査の実施により環境配慮の見える化を行い、販売促進の手助けやSBFの基準作りの参考とする取り組みを実施

→大学や地元の高校などとの連携により環境教育の実施も目指す。

○「どっちも大切！羽幌の自然と地域産業」を行い、羽幌の地域産業のことや自然とのつながりについて、多くの人に知ってもらおう。

地域づくり小委員会での今後の取組（ご提案）

○釧路地域の様々なセクターの人たち（農林水産業、観光、飲食、福祉、学校など）と話し合える機会づくりを行う

→釧路湿原の保全・再生が、釧路地域の社会課題の解決にどのように貢献していけるか。

○国の機関だけではなく、地元市町村が積極的に取組みに関わってもらうための仕組み作り

○釧路湿原の保全・再生と、地域産業や地域住民をつなぐコーディネーターの育成